

第83号

発行
平成27年8月

センターだより



友情のホタル50周年記念碑

目次

● 就任挨拶	2
● 小学生に対する福祉体験学習	3
● 「友情を灯し半世紀」～蛍の交歓会～	4
● 第10回大分県障がい者スポーツ大会	6
● 第20回スポーツ大会	6
● 市民講座開催	7
● 納涼盆踊り大会	7
● 終了者の状況、職員異動、利用者募集のご案内	8

指定障害者支援施設

国立障害者リハビリテーションセンター自立支援局

別府重度障害者センター

就任挨拶



所長 石渡 博幸

本年4月1日付で、埼玉県所沢市にあります、国立障害者リハビリテーションセンターから、当センター所長としてまいりました。よろしくお願ひいたします。

今まで、施設を中心に各地を異動してきましたが、別府で仕事をさせていただくのは今回が初めてです。別府は、温泉、海、山と自然環境も豊かですし、特に魚の新鮮さには驚いています。

さて、当センターでは、主に頸髄損傷の方々に対して、生活に必要な様々な日常生活動作を、個々の機能状況に応じて獲得していただき、それぞれの地域へ戻っていただくための支援を行っています。このような機能回復訓練は支援の重要な柱の一つですが、加えて、手織り、トールペイントや各種パソコン技能の習得、あるいはバスケットボール、ボッチャ、マラソン、サッカーなどの各種スポーツ等も、車椅子で行えるよう工夫しながらプログラムに組み込んでいます。また、日中の訓練時間帯だけでなく、生活支援の場面でも自己健康管理や栄養管理の仕方を学んでいただいたり、動作の習熟を図るなど、各専門職員が様々な場面や機会を活用して支援を行っています。

当センターの利用者の皆様の障害は、頸髄損傷という重度の障害ですが、皆さんそれに様々な技能や知識、経験、可能性をたくさん持っておられます。私たちは、利用者の皆様が、地域に戻って生活を送るために、機能回復や日常生活動作の獲得だけでなく、余暇活動、就労など生活全般にわたり、ご自身の可能性に気づき、できるだけ多様な選択肢を持っていただくことが大変重要だと考えています。センター利用中に、多くの体験を積み重ねていただき、センター終了後の生活を送っていく中で、「やってみたい」と思うことが少しでも増え、それを実現するために少しでも役に立つ「種」を持って終了していただければと思っています。

また、私が赴任以来、センターでは様々な行事が行われました。6月には、毎年児童を利用者の皆様に届けていただいている小学校との交歓会が50周年を迎えました。7月のスポーツ大会では、近隣の保育所の園児の皆さんのが参加いただき、利用者の応援もしてくれました。15年以上続いている町内会との盆踊りでは、踊りや太鼓などの各団体の皆様のご協力をいただき、地域の高齢者施設の皆様はじめ、多くの方々にご参加いただきました。これらの行事は、今までセンターを終了された利用者の方々も、大変よい思い出になっていると伺っています。

当センターは、障害者の方々の支援施設として、60年の歴史があります。長年にわたり、この別府の地で国立機関として事業を継続してこられたのは、このような地域の皆様の継続的な支援、ご協力の賜物と感謝しております。

国立の頸髄損傷者に対する支援機関は、現在、当センターの他、国立障害者リハビリテーションセンターと伊東重度障害者センターの3箇所ですが、来年7月には、国立障害者リハビリテーションセンターと伊東センターが統合する予定であり、今後増え当センターの果たすべき役割は重要となります。これからも、このような伝統と歴史を大切に継承しながら、時代や状況に応じて改革していくべきところは改革し、センター全職員が一つのチームとして支援を進めてまいりたいと思っております。

小学生に対する福祉体験学習

主任理学療法士 浅野 圭司

当センターでは地域活動の一環として近隣の小学校へ訪問し福祉体験学習を実施しています。今回は、6月18日に別府市立大平山小学校、7月7日に別府市立南立石小学校をそれぞれ訪問し、4年生に対し、障害者への理解を深めてもらうため障害体験学習(①車椅子の操作方法、②車椅子で介助する・介助される体験、車椅子の基本構造を知ってもらう、③自助具などの福祉用具の使用体験)を行いました。

車椅子体験では、普段乗る機会がないスポーツ(車椅子バスケットボール)用車椅子操作体験と普通型車椅子の介助体験を行いました。操作体験では、はじめのうちは慣れずにうまくこげませんでしたが、慣れてくると直進、後進や方向転換など、上手に操作できるようになりました。

車椅子の基本的構造や折り畳みなどの取扱いを学んだあと、車椅子の介助法方や当事者、介助者の気持ちを理解してもらうため児童がそれぞれ障害者役、介助者役に分かれ車椅子を使用し段差越えなどの介助方法を体験しました。

また、障害者が失われた機能を補うため、普段どのような自助具を用いて生活しているかを体験するため書字具やソックスエイドなどを使用した書字や靴下履きを行いました。

また、秋以降に小学生がセンターを訪れ実際のリハビリの様子を見学する予定になっています。

今後も地域の皆さんを中心に障害者への理解を深められるようこのような福祉体験学習を継続していければと思います。

後日、児童の皆さんから感想文が届きました。以下は、大平山小学校の児童の皆さんの感想の一部です。

①車椅子体験

車椅子を広げる時、たくさん力が必要だったので大変でした。車椅子を段差から下ろすのが大変でした。車椅子だと小さな段差でも登ったり出来ないから大変だなと思いました。

②スポーツ用車椅子体験

スポーツ用車椅子体験は、前に行ったり後ろに行ったりするなどが、まだ初めてだったから回ったりは上手に出来なかつたけど、体が不自由な人でも楽しめるようにしているのだなと思いました。

③自助具体験

靴下をはく自助具は、最初何に使うかまったく分かりませんでした。でも、分かってから使ってみたら、上手にはけたけどすごく難しかったです。他にもはしやハサミなどのいろいろな自助具があったのですごいと思いました。

④手が自由に動かせない体験

手に黒いものをつけて鉛筆をさす所があってパーで書くと言われたのでやってみるとすごく大変であまり力が入りませんでした。障害者の人たちは、すごく大変だなと思いました。



「友情を灯し半世紀」～蛍の交歓会～

昭和41年に始まった竹田市立南部小学校との蛍の交歓会が今年で50周年を迎えるました。

50周年記念事業の実施に向けて、南部小学校や竹田ロータリークラブの関係者の方々とも、昨年度から何度も打ち合わせを行って準備を進めてきました。

平成27年6月11日(木)、南部小学校から、6年生と5年生合わせて59名の児童が500匹の「友情の蛍」を届けに来所されました(写真右)。記念式典では、全員が協力して一生懸命作ってくれたちぎり絵の大作(写真下)の贈呈と合わせ、元気で可愛らしい合唱や演奏を披露していただきました。



センターから南部小学校、児童会、PTA、竹田ロータリークラブそれぞれに感謝状を授与しました。竹田ロータリークラブからは記念碑を贈呈していただき、「除幕式」を行いました。

竹田ロータリークラブからも大勢の参加をいただき、ロータリークラブ会員で構成された「オンチーズ」のすばらしい歌声の披露もありました。

また、この交流の始まりのきっかけとなった、故菅八郎氏、故角田耕一氏のご子息にあたる菅謹一郎氏、角田宗広氏をはじめ、センターOB職員、元利用者、南部小学校長、PTA関係者、ロータリークラブ役員など蛍の交歓会にゆかりのある方々をお招きして座談会を開催しました。

半世紀に亘り続いてきたこの行事の節目にあたり、児童を含めた学校関係者81名、ロータリークラブ関係者20名、OB職員等3名の合計104名の方々を外部からお迎えすることとなり体育館がとても狭く感じられたほどでした。

「友情を灯し半世紀」～蛍の交歓会～



午前中の記念式典では、生徒会長の谷畠進生さんから「蛍の光を見て心の癒しになれば」と挨拶があり、センター利用者を代表して小野貴之さんが「皆さんのおかげで前向きにリハビリに取り組むことが出来ます。」とお礼の言葉を述べました。

当日はあいにくの雨で、屋外で行なう記念碑の除幕が心配でしたが、雨天に備えて予めテントを設置したり、南部小学校、ロータリークラブとも連絡をとりながら準備を進めてきたことで、大きなトラブルも無く、無事記念行事を終えることができました。

午後の体験学習では、南部小学校の児童たちが、車椅子体験、レザーグラフト体験、手織り体験、お話会のグループに分かれて、利用者との交流を楽しみました。

座談会では、利用者にとっては子供たちから元気をもらい、児童にとっては福祉について理解を深めるなどのメリットがあることや、50年に亘って、多くの色々な方が関わってくださり続いてきた経過や歴史などを利用者に説明しておくことの意義、自然環境保護の問題と行事の継続についてなど、とても有意義な内容となりました。



夜は、蚊帳を張って蛍を放し、観賞会を行いました。

早くベッドに上がっていた利用者には、職員が蛍籠を持って各居室を回りベッドサイドで蛍を観賞していただきました。

利用者の方からは、「久しぶりに蛍を見た、綺麗だった。」「とてもうれしかった。本当に励みになる。」「自分の目で見られるというのは本当にうれしい。」など多くの方からこの交流と行事を続けて欲しいという声が聞かれました。

11月には「答礼」のために利用者と職員で南部小学校を訪問する予定です。また、南部小学校と共同して記念誌の作成も予定しています。

第10回大分県障がい者スポーツ大会

運動療法士長 木畠 聰

第10回大分県障がい者スポーツ大会が、5月～6月にかけて開催されました。センターからもアーチェリー競技と陸上競技に参加しました。

アーチェリー競技は5月16日に別府市の実相寺アーチェリー場で開催され、1名の利用者が参加しました。今年に入って矢を放てるようになったことから後半は疲労との戦いでしたが、最後までしっかりと集中して競技を続けることができました。

陸上競技は6月7日に大分市のだいぎんドームで開催されました。50m走・100m走・スラローム・ビーンバック投の競技に9名の利用者が参加し、金メダル5個 銀メダル6個 銅メダル2個獲得することができました。大会前の熱心な練習により当日は自己ベストを出す方もいました。かすかに緊張感の混じる皆さんの表情、輝いていました。いいものですね。来年多くの方の参加をお待ちしています。



第20回スポーツ大会

7月2日(木)に第20回所内スポーツ大会を開催しました。利用者、職員が紅白に分かれ、7種目の競技(じゃんけんサッカー、ボールリレー、当てるッチャ、パン食い競争等)を競い合いました。紅組キャプテン山本孝一さん、白組キャプテン山本海斗さんが「山本家の親子対決」と選手宣誓を行い、競技が始まりました。

前半戦は白組のチームワークが発揮され、ボールリレーやじゃんけんサッカーで得点を積み重ね、白組優位で終わりました。後半戦では紅組も奮起し、風船バレーで得点を重ね、最終種目の対抗リレーまで勝敗はもつれました。対抗リレーではそれぞれのキャプテンがアンカーをつとめ、最終アンカーで対抗リレーの勝負がついた程の熱戦でした。僅差で紅組が白組を対抗リレーで制した結果、前半戦の得点差をひっくり返した紅組の勝利となりました。

この度のスポーツ大会においては、関係機関のご協力あって開催できたことを、この場をかりて御礼申し上げます。また、青山保育園の園児の皆様においては、パン食い競争への参加と可愛らしい応援をありがとうございました。



市民講座開催

看護・介護部門

6月18日(木)14:00~15:00、当センター研修室にて「高齢者の転倒予防体操」について看護・介護部門で市民講座(地域の方々を対象とした講習会)を開催しました。

今回も南莊園町の自治会にお願いにあがり、6月の市報を配布する際にパンフレットをいっしょに配布していただきました。

天候の悪い中、福祉施設の職員の方が参加していただきました。

はじめに職員が転倒予防について簡単に説明した後、椅子に座って出来るストレッチ体操やリズムに合わせて行う転倒骨折予防体操をスクリーンに映し説明を行いながら参加者の皆さんと共に行いました。皆さん、楽しそうにリズムに乗りながら身体を動かしていました。

毎日行う事で転倒予防を防ぐ事が出来るので、時間の空いている時に行っていただきたいと思います。

また、参加した職員の方から「施設でも椅子に座って行う転倒予防体操を取り入れてみたいと思います」と感想をいただきました。参加してくださった皆様、ありがとうございました。



納涼盆踊り大会

南莊園町自治会との共催行事として例年開催している「納涼盆踊り大会」は7月30日(木)夕方から当センター屋外運動場において開催されました。

この納涼盆踊り大会は、センターと地域住民のふれいあいを目的に毎年開催されております。

開催時間になんても暑さが引かない中、威勢のよい古戦場太鼓の響きにあわせ別府民踊会、寿扇会及び南莊園町婦人部の方々の優雅な踊りに続き、町内の皆様、当センター利用者、職員も踊りの輪に加わり、「別府音頭」、「温泉踊り」、「ヤッチキ」の3曲を踊り、会場が狭く感じるほどの盛況でした。

また、会場入口近くのテントの中では、スーパーボールをすくったりと地域の方々と当センター利用者、職員で和やかな雰囲気のなか、暑さも忘れ楽しいひとときを過ごすことができました。

大変暑い中にもかかわらず、体調をこわす方もおられず無事終了することができました。

参加いただいた大勢の皆様、ありがとうございました。

終了者の状況

(平成27年1月1日～平成27年6月30日)

復帰形態	家庭復帰	就職	自営・内職	現職復帰	就労支援施設・能開校	他施設	病院	進学	その他	計
人 数	19	2	0	1	0	1	2	0	1	26
比率(%)	73.2	7.7	0	3.8	0	3.8	7.7	0	3.8	100.0

職員異動

平成27年3月31日付

○定年退職 所長 小石 公二郎
 庶務課調理師長 遠藤 福美
 退 職 支援課機能訓練専門職 浦田 真由美

平成27年4月1日付

○採用 支援課機能訓練員 水谷 彰
 ○再任用 庶務課栄養係 仁木 登志博
 ○転入 所長 石渡 博幸 (国立障害者リハビリテーションセンターより)
 庶務課庶務課長 佐藤 春巳 (国立障害者リハビリテーションセンターより)
 ○転出 庶務課庶務課長 福田 克広 (国立障害者リハビリテーションセンターへ)

利用者募集のご案内

当センターは、厚生労働省が設置・運営する指定障害者支援施設です。主に頸髄損傷等による重度の肢体不自由の方で、市区町村から「障害福祉サービス受給者証」の交付を受けた方を対象に、社会復帰に向けた支援を行っています。

ご利用できるサービスは以下の通りです。

○自立訓練（機能訓練）

理学療法、作業療法、スポーツ訓練、職能訓練です。

利用期間については、利用開始後の評価に基づき作成した個別支援計画書に定めた期間となります。障害者総合支援法上の標準利用期間は1年6か月間です。(頸髄損傷による四肢の麻痺その他これに類する状態にある方は最大3年間です。)

○施設入所支援

自立訓練（機能訓練）を利用される方で、自宅から通所が困難な方のために、看護・介護等の支援を受けてながら宿舎の利用が可能です。

詳細は、次のURLから当センターのホームページをご参照ください。

<http://www.rehab.go.jp/beppu/>

なお、当センターの概要や利用申込み手続き、見学などのお問い合わせについては、下記までご相談ください。

お問い合わせ先

国立障害者リハビリテーションセンター 自立支援局

別府重度障害者センター 支援課

住 所 〒874-0904 大分県別府市南荘園町2組

電 話 0977-21-0182 (利用相談)

F A X 0977-21-2794

E-mail soudan-beppu@rehab.go.jp

発 行 別府重度障害者センター